

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。秋本番、今年もあと二か月あまり。朝晩の冷え込みも厳しくなりま

す。くれぐれもご自愛ください。十月の古称は神無月(かんなづき)。出雲大社に国中の神様が集まるため、出雲以外には神様がいない。なるので「神無月」。そう伝えられていきます。一方、出雲地方では「神在月」とも呼ばれ、「神迎祭」が行われます。興味深いですね。神様が出雲に出かけている間に郷(さと)を鎮(まも)る「留守神」を祀る地域もあるそうです。一般に「留守神」には恵比須様がなることが多い。十月に「恵比須講」を行う地域も少なくありません。日本社会の特徴は「神仏習合(しんぶつしごう)」。六世紀に日本に伝来した仏教信仰と、日本古来の神祇信仰が混然一体となった

ものです。神社と寺院が並んで建っていることも珍しくありません。仏教伝来後、やがて「本地垂迹(ほんぢすいじゃく)」説も登場。日本(やま)の八百万(やおよろず)の神々は、様々な仏(如来や菩薩など)の化身として現れた「権現(ごんげん)」であるとする考え方です。「山川草木悉有仏性(さんせんそうもくしゅうぶつしやう)」とは、人間に限らず、山川草木や生類すべてに仏性が宿るといえる考え方。かにも日本的と言え

ます。食事前の挨拶である「いただきます」も、言わば「山川草木悉有仏性」の心に近い感謝の言葉。植物にしろ、動物にしろ、その「生」を頂戴して人間が「生」を維持していることへの感謝の証(あかし)。自然との共生、他の生き物(動植物)との共存は、地球という閉

ざされた空間で生きていくための当然の前提。しかし、人間はますます横暴、横柄になっていくような気がします。

今年の「神無月」。月初は真夏日が続出。気象台の観測史上、十月としては最も暑い日というニュースを何度も聞きました。僕が子ども頃は竜巻のニュースは聞いたことがありませんでした。最近国内でも被害が続出。明らかに天候や自然現象が変化しています。

※

人間は、自然への感謝の気持ち忘れずに、謙虚な姿勢で活動していかないと、やがて神様からも、仏様からもお叱りをうけるかもしれません。そういうことも沈思黙考、自省しながら、あと二か月、無事息災に過ぎしましょう。

耕平

満員御礼

26日高野山バスツアー



いってきまーす!!

12月22日(日) 開催予定

第10回

「弘法さんを語る会」

定員50名

午後1時30分より

会場 日泰寺西側「専修院」

今年のテーマ

最澄と空海の時代

です。

～執筆者・大塚耕平がお話させていただきます～

参加無料

(定員50名/事前にお申し込み頂ければ幸いです)

お問い合わせ 大塚耕平事務所 TEL 052(757)1955 あさい

